

人権学習展開例

- 主題名 私たちにできる犯罪被害者支援
- 教材名 二次的被害を与える加害者とならないために
- 人権学習の視点 個別的な視点「犯罪被害者等の人権」
- 主題・教材について

犯罪被害に対して私たちは、「自分には関係のないこと」と捉えがちである。しかし、毎年発生している犯罪被害件数を考えると、いつ自らの身に起こっても不思議ではない。また、身近に犯罪被害者、その家族等がいることも考えられる。いつでも私たちは犯罪被害者等になり得るし、二次的被害を与える加害者にもなり得る。そのため、私たち自身が加害者とならないためにどのような態度を身につけなければならないか考える必要がある。「娘の被害から学んだこと感じたこと」から犯罪被害者等に起こっていることや気持ちを読み取らせ、二次的被害を与える加害者となることを未然に防止したい。

●ねらい

学習を通して、犯罪被害者等について起こっていることや抱えている苦しみを理解するとともに、二次的被害を与える加害者となることなく、適切で効果的な支援ができる方法や態度を身につけさせる。

●本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
導入	犯罪被害者等が抱える二次的被害とはどのようなものだろうか				
	<ul style="list-style-type: none"> ○誰もが犯罪被害者等になり得ること、身近に犯罪被害者等がいるかもしれないことを認識させる。 ○二次的被害の例を示す。 ○本時の学習課題を知らせる。 	一斉	○提示資料を見る。	<ul style="list-style-type: none"> ○被害者・加害者を含め、該当する生徒がいる可能性があることを踏まえ、授業を展開する。 ○ここでは二次的被害を例示するだけにとどめる。具体的な内容については展開で説明する。 ○犯罪被害に遭うということについて、自分自身の問題として考えさせるとともに、二次的被害で苦しむ犯罪被害者等への支援の在り方を考えさせることを押さえる。 	提示資料
展開	手記から二次的被害を読み取ろう				
	○注意事項を確認し手記から二次的被害を読み取らせる。	個別	○配付資料を読み、どのような二次的被害を受けたか、どのような言動で励まされたかを読み取る。	○該当箇所にチェックさせる。	配付資料

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具
展開	○犯罪被害者等の気持ちや抱えている問題に気づかせる。	グループ	○個人で考えたことをグループで共有し、自分では思いつかなかったことをメモする。 ○周囲の言動が意に反して犯罪被害者等を傷つけてしまう場合についてグループで意見を出し合う。	○意見共有させた後、二次的被害の具体例を提示し、手記の中で似たような箇所がなかったか確認させる。 ○筆者が事件を受け入れることができない状況であることや孤独を感じていることを読み取れているかなど確認する。 ○生徒一人一人の声をできるだけ拾うように心がける。	
	○犯罪被害者等の心の傷の回復のために必要な態度は、一様でないことに気づかせる。	一斉	○提示資料を見て、犯罪被害者等への支援の在り方を考える。	○相手の心情に沿わない励ましは時に人を傷つけることに気付かせる。 ○私たち一人一人がそうであるように、すべての犯罪被害者等が同じものを求めているとは限らない。そのため、分かったような気にならず、犯罪被害者等の気持ちを十分に聞き、受け止めることが大切であることに気づかせる。	提示資料
まとめ	○本時の学習を振り返らせる。	個別	○本時の授業を通して考えたことや気付いたことを感想用紙に記入する。	○「●●すれば相手は喜ぶ」など、自身の中に存在する思い込みや価値観によって行動するのではなく、その人の気持ちや、その人に起こっている出来事をよく考え、「相手に寄り添う」気持ちを持った言動を心がけていくことが重要であると確認し、締めくくる。	感想用紙

どのような態度が大切か考えよう

●評価

犯罪被害者等について起こっていることや抱えている苦しみを理解し、二次的被害を与える加害者とならないために適切で効果的な支援方法や態度を身につけたか。

<参考資料>

●「友達が被害者になったら」

<https://www.npa.go.jp/hanzaihigai/kohyo/keihatsu/kyouzai-student/study/index.html>
(警察庁犯罪被害者等施策推進室)